

都市近郊緑地における生物多様性と管理労働力・費用の関係解明

研究の概要

都市近郊の里地里山、住宅地緑地には、以下二点の特徴がある。

1. 人間による管理により担保されている
2. 私有地にあり土地所有者の生業により成立してきた

このため、近年、産業構造の変化により、生業による私有緑地の質的な維持、生物多様性保全が困難になっている。生物多様性保全のため、以下の対策が必要である。

- a) 生物多様性ホットスポットの確保（優先して護るべき場所の科学的な検討）
- b) ホットスポットに投下すべき必要労働力量・コストの定量試算、制度への反映

対策を支援するため、これまでなされていない以下の科学的調査が必要である。

- 1) 高解像度衛星画像と地上の植生調査を GIS で結び付け、a) を抽出
- 2) 実際の二次的自然再生事業の作業日誌から必要労働力量・コストを復元、1) と対応させ、地域全体としての自然再生に必要な費用を、将来シナリオ毎に算定する。

研究の特徴

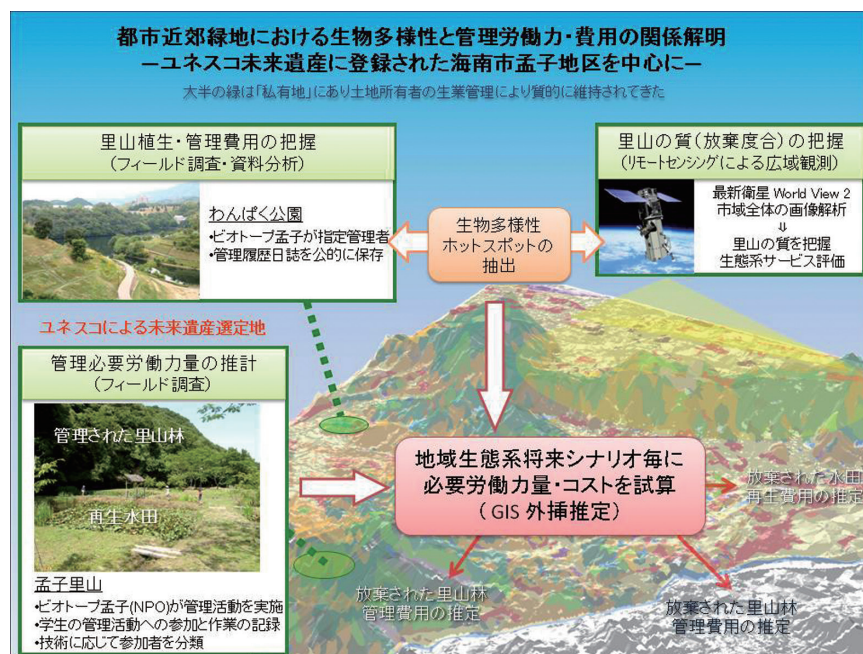
二次的自然の生物多様性については研究が進んでいる。また、各地で NPO による自然再生事業が進んでいる。しかし土地所有者の生業により支えられてきた全ての二次的自然を維持することは不可能である。このため、二次自然と管理労働力・費用を結び付けることで、自然再生活動を支援する制度構築のための科学的知見を提供する。

行政・経済界・地域と連携した取り組み例

主な研究対象地は海南市孟子不動谷である。当地区は NPO ビオトープ孟子により管理され、ユネスコ未来遺産に昨年選定された。その生物多様性に、国内外から注目が高まっており、地域連携・地域情報の発信の意味でも適切な研究対象地である。本研究を通じて二次的自然維持のためのコストを算定することで、NPO 団体と行政の連携強化にも寄与できる。

研究者からのメッセージ

国際学術誌を中心に研究成果を発表する。このことで当該地区が科学的に認定された形で世界に紹介され、生物多様性を中心にした地域活性化が見込まれる。単なる「産業振興」的古風な範疇を越えた、サイエンスによる真の意味での新しい「地域貢献」を実現していきたい。



研究分野 : 緑地環境計画, 都市農村計画, 景観生態学

研究者の所属部局・職位・氏名 : 和歌山大学システム工学部 環境デザイン学領域・教授・原祐二

本件に関するお問い合わせ : liaison@ml.wakayama-u.ac.jp